

授業科目 言語聴覚障害診断学

【担当教員名】 磯野信策		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【＜一般目標：G I O＞】 言語聴覚障害の診断では、対象者とその家族に対して面接、検査、観察を行い、必要に応じて関連する他機関の情報を集め、それらを総合的に評価する必要がある。その診断にもとづいて治療計画を立案し治療を実行するのであるから、もし診断に誤りがあれば治療効果は現れない。 本講義では、それぞれの言語障害を評価・診断する上での基本的な考え方と手順を知り、各種の言語障害に対応した					
【＜行動目標：S B O＞】 1. 臨床上有効な言語症状の分類法を理解する。 2. 情報収集の方法を理解する。 3. 診断および治療計画作成の手順を学ぶ。 4. 言語聴覚士が用いる各種の検査・訓練器機を知り、取扱い法を理解する。					
回数	授業計画又は学習の主題	SBO			
		番号	学習方法	学習課題又は備考	担当教員
1	言語症状の分類	1	講義		
2	情報の収集(1) 選別検査 行動観察 検査の選択と検査バッテリー	2	講義		
3	情報の収集(2) 面接と問診 面接の心構えと一般的なルール 主訴、生育歴、現病歴、既往歴等の聴取	2	講義		
4	情報の収集(3) 他科・他施設からの情報を求める 依頼、照会の実施方法	2	講義と演習		
5~6	診断と治療 治療的診断＝診断的治療、再評価 何をどこまで治療するのか・できるのか 治療計画と予後の見通し 治療契約				
7	器機を用いた評価と訓練	3	講義		
8~	各障害領域における診断法	4	講義と実習		
15	以下の各領域について各種障害の診断法を学ぶ ・成人言語障害 ・小児言語障害 ・聴覚障害				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書					
参考書		言語聴覚療法臨床マニュアル	日本言語療法士協会編著	協同医書出版	1992年・9785円
		声の検査法 基礎編、臨床編	日本音声言語医学会編	医歯薬出版	1999年・4400円、5400円
		言語治療マニュアル	福迫陽子他編	医歯薬出版	1995年・9600円
その他の資料		随時配布する。			
【評価方法】 定期試験で評価する。		【履修上の留意点】			